

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成果報告書

平成23年10月14日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 大学院人間・環境学研究科

職名・学年 博士課程 2年

氏名 宋 玉 梅

助成の種類	平成23年度・若手研究者在外研究支援・在外研究中期助成		
研究課題名	日中戦争期における米国華僑華人の政治意識形成過程に関する歴史研究		
受入機関	南カリフォルニア大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス分校等		
渡航期間	平成23年7月7日 ～ 平成23年9月30日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	交付を受けた助成金額	750,000円	
	使用した助成金額	750,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	米国国内交通諸費:250,000円	
		宿泊料:455,000円	
		査証手数料:15,000円	
		資料複写代:30,000円	
	不足分は私費を利用		

## 成果の概要

大学院人間環境学研究所 博士課程 2年 宋玉梅

調査目的 日中戦争期における華僑の政治意識の形成過程と越境動機を検証することを目的とした。研究方法としては、愛国華僑として知名度の高い司徒美堂と元国民党の駐ワシントンDC国民党新聞責任者梅其駒（Ernest Moy）について、彼らに関する一次史料を中心に調査・収集したうえで、先行研究を検証し、米国華僑の政治意識の形成過程を実証する方法を採用した。

調査期間 平成23年7月6日—9月30日

調査場所 カリフォルニアロサンゼルス大学図書館、南カリフォルニア大学図書館、ロサンゼルス公立図書館東アジア資料センター、ロサンゼルス中国系アメリカ人博物館、ロサンゼルス中華会館、スタンフォード大学フーバ研究所資料館、スタンフォード大学図書館、米国国立公文書館サンブーノ分館など。

### 収集した主な史料

<新聞類> 『中西日報』（米国華僑社会に最も影響力が強く、華僑の中のキリスト教徒が創刊した新聞紙、サンフランシスコ刊行）、『少年中国晨报』（中国国民党系、サンフランシスコ刊行）、『美洲日報』（中国国民党系、ニューヨーク刊行）、『救国時報』（共産党系、パリ刊行）、『大漢公報』（致公堂系、カナダ刊行）など1950年代までの漢字新聞紙。

<公文書> スタンフォード大学フーバ研究所資料館に所蔵されている中国国民党、蒋介石日記、致公党及び梅其駒に関連する中国語と英語史料。

<聞き取り調査> 梅其駒に関して、彼の親戚にあたる人物に対して、聞き取り調査を行った。ここで、特筆したいことは、南カリフォルニア大学のロン・クラシゲ准教授に史料の取り寄せと複写に大きな便宜を図っていただいたことである。クラシゲ准教授のおかげで、短い期間中に多くの史料を入手することができた。

## 成 果

### 1、米国華僑社会における国民政府の位置づけ（1910—40年代）

1920年代頃、米国華僑の多くは孫文を広東から追い出した陳炯明を支持していたことが史料によってわかった。それで、国民党や共産党が宣伝してきた「華僑は孫文の革命を支持した」という「常識」に真正面からぶつかる米国華僑の政治意識実態を新聞紙と国民党の公文書により明らかにすることができた。なお、1920年代初頭、孫文のロシア共産党との提携に関して、『中西日報』は猛烈な批判を行った。その要因として米国国内のさかんな反共産主義という社会背景が考えられるが、それだけでは完全に解釈できないところもある。たとえば、国民党系の新聞紙『少年中国晨报』の編集者たちは米国国内に居住しながら、孫文を支持し続けた。さらに、1925年に孫文が亡くなった後、国民党内で権力を掌握し始めた蒋介石に対する米国華僑の政治上の評価も、華僑社会に刊行された新聞紙などによって再検討されるべき余地がある。

### 2、司徒美堂に関連する史料

#### 2-1、司徒美堂の代表資格に関して

1949年の中華人民共和国第一回政治協商会議に出席した司徒美堂の米州華僑代表資格問題に

ついて、サンフランシスコ中華総会館をはじめ、華僑社会の有力団体らは中華民国政府あてに反対声明を出したことが分かった。この点は米国華僑社会全体が共産党を支持するかまたは国民党を支持するかという政治動向を検討する際の重要なポイントである。

## 2-2、致公堂と国民党との関係

致公堂と国民党との関係は司徒美堂の政治意識を考察する際に不可欠な背景として重要な位置を占める。

1920年代ころ、致公堂と孫文との関係が決裂した過程は、国民党の公文書によって、その過程を概ね把握できた。ここでは、従来の孫文の革命と米国華僑との関係を実証的に検討する余地も残されている。

## 3、梅其駒（1895-1958）に関連する史料

梅其駒に関する史料は主にフーバ研究所資料館に所蔵されている。これらの資料によって、彼はアメリカ生まれの中国人の知識人であり、また **The China Press** など新聞紙の編集者であって、政治面においては反共産主義運動者であることがわかった。史料は彼が執筆した新聞記事や手紙、米国政府高官と議員宛のレポート、そして書籍など幅広い種類のものであった。これらの史料から彼の政治意識の変遷をたどることができると期待される。さらに、梅は数少ない米国生まれの華人知識人として、当時の米国政府の対中国政策の制定者に対中国政策の意思を、そして国民政府の政治家には対米国政策の意見をたびたび求められている。それに対する彼のそれぞれ政府への献言には、彼の政治意識がはっきり現れている。

以上の梅其駒史料を除き、彼の家族から彼が生前に集めていた個人コレクションを寄付されたこと、と親戚にあたる人物へ聞き取り調査を実施した。これらは今回の調査の予定外の展開であった。

以上に収集してきた史料を精読・分析し、学術論文にまとめる。

末筆ながら、以上のような信憑性が高くかつ豊富な史料を入手できたことは真に貴財団のおかげである。ここで、深く感謝の意を表したい。